

本島通信

貧に落ちきるのは 目的ではなく手段

2月大教会教会長会議

立教189年2月22日

大教会長 片山幹太



発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
 電話 0877-27-3321 (代)

本島通信編集室 R260224-0227-15
 奈良県天理市指柳町270-1
 本島詰所 〒632-0093
 電話 0743-63-1571 (呼)

https://www.honjima.com
 Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間
【2月16日～3月31日】
 朝づとめ 午前6時45分
 夕づとめ 午後6時30分

母は長い間、本部教祖殿で御用を勤めさせていただいております。そういうこともあったことかも知れませんが、私に好きな甘い物、美味しいものが手に入り、詰所会長宅の食堂にちよつと置いていたら、よくなるのです。その理由はだいたい母なのです。

母は美味しそうなものをみつけると、すぐ「これは教祖のところへお届けしよう」となります。私に断りもなく持つていくのですから、最初は「なんでや?」という気持ちでした。ですが、母が教祖に喜んで頂きたいという一途な思いであったことを知ると、すつと胸が治まる、ということを繰り返している次第です。

論達第四号において真柱様は「教祖はひながたの道を、まず貧に落ちきるころから始められ」とあります。では、貧に落ちきる事が目的だったのかというと、私はそうでは

ないと思うのです。貧に落ちきることは目的ではなく、おたすけのための大事な「手段」だったのでないでしょうか。

天保年間は、「天保の大飢饉」がありました。洪水や冷害による大凶作が続いたため、人々は食べるものがなく、貧困に陥った百姓が大勢餓死するという大ふしに見舞われました。飢えている人々、困っている人々に、教祖は施しを始められました。一れつをたすけるために教祖は躊躇ちゆうちょなく中山家の財産を施されたのです。

もちろん、貧に落ちきることで人様の心を知ることができるという大事な側面もありますが、私は真柱様の「人たすけに躊躇なくつとめさせていただくこう」という思いがあるのではないかと思っています。

教祖年祭を勤めさせて頂いた新たな歩み出しに当たり、我々ようぼくは教祖のたすけ一条の道、躊躇なく人様に手を差し伸べられるようなようぼくに、これからも努めさせて頂きたく思います。

(文責・本島通信編集室)

本島大教会 神殿講話 (要旨)

【立教189年2月22日】

「たすけ一条つとめ一条」 真柱様より思いを載せて

大教会役員 池田さわみ

只今は2月の月次祭を、大教会長様を芯に一手一つに勇んで勤めさせて頂きましたことを心よりお慶び申し上げます。

より神殿講話をつとめさせて頂きました。去る1月26日、御本部において教

御命をいただきましたので、只今

殿祭文奏上、かぐらづとめ、てをど



り、真柱様のお言葉、教祖殿祭文奏上と終始中庭で参拝させていただきました。前日は降雪もあり、寒い中ではありましたが、教祖のご苦勞を偲ばせていただき、年祭の元一日にこめられた深い親心に思いをいたしながら、三年千日お連れ通り、お育てくださいました数々のご守護に心からお礼を申し上げます。真柱様のお言葉のすべてが、私たちのこれからの歩み、成人の道への一語一語と拝聴させていただきました。その一部を拝読させていただきます。

「月日がありてこの世界あり、世界ありてそれくあり、それくありて身の内あり、身の内ありて律あり、律ありても心定めが第一やで。(明治20・1・13)

そもそも、月日親神がこの世人間を造った。その人間が定めたのが法律である。法律があるからつとめはできないと言うが、元なる親神様の心に沿いきる心を定めることが第一であると、陽気ぐらしへ進んでいくところの心の持ち方、法律に先立つ心定めをお諭しくされました。これは、ただそのとき居合わせた人々に対するお諭しであるばかりでなく、現在の私たちも心しなければならぬ、信仰の要でありませう。(中略)

きょうをもつて一つの区切りが過ぎましたが、陽気ぐらしの世界への道のりは、まだまだ遠いのであります。この長い道のりを道しるべとして、十年ごとに年祭という一つの節目を設け、全教があらためて目指すべきところを確認し、心の向きをそろえて、心のふしん、また形の普請を進めて、道は今日の姿に至ったのであります。

年祭に向かつての、いわば非常時の歩みは終わりました。これからは普段の歩みになっていくわけですが、普段といつても、三年前に戻ってしまっただのでは何にもなりません。三年間の努力のうえに立った歩みを続けていかなければならないと思えます。

きょうは新たな歩み出しの日でもあります。どうか皆さん方には、これからも勇んで歩み続けてくださることをお願いいたします。きょうのあいさつとさせていただきます。」

このようにお言葉を頂戴いたしました。

振り返ってみますと、4年前に論達第四号をご発布いただき、ようほく一人ひとりが教祖の道具衆としての自覚を高め、仕切つて成人の歩みを進めることを目指して、三年千日を歩み始めました。

私も第1年目の1月より、おたすけに通わせていただいております。したが、2月にその方がお出直しされ、続いて実家の母が2月22日、つまり3年前の今日になります。祭典中に出直しの知らせが入りました。きつと母も大教会月次祭を参拝してお出直しされたかと悟り、「お母さんありがとう、今日までよかったね」と心の中で申し上げました。

さらにこの年は、部内の前会長様お二人と、教会役員も出直されました。長年教会の上に、そして御用の上に真実をお運びくださった先人生方のお出直しに、まるで土台がな

くなるような不安定な寂しさを覚えられました。しかし悲しんでばかりでは居られません。年祭活動の始め出しにあたり、私も土台となるようしっかりしなければと心定めて通らせていただきました。

三年千日の活動が始まった当初は、教祖140年祭がとてと遠くに見えていたのですが、実際はとてと速かったです。正直に申し上げて、一日コツと地道に通らせていただくことが出来なかつた日もあり、反省もたくさんあります。しかし、喜びもたくさん見せていただきました。

3年目の5月と11月は、『斯道会別席団参』が実施されました。親の声はありがたいですね。平時はお誘いにくい方でも別席団参に参加くださり、別席を運ばれました。さらにその方のお母様が11月初旬、脳内出血で救急搬送されるというふしがありましたが、幸い後遺症もなくご守護いただきました。いろいろ不思議が重なり、大難は小難、小難は無難にご守護いただいたと話し合っております。そしてその娘さんが、11月末の第2回別席団参でおぢばがえりをしてお母様の身上のご守護をお礼申し上げたいと言ってくくださったの

が、私にとって何よりの喜びでした。教会を預からせていただいている立場としても、信者さんに何かあった時だけでなく、普段から電話したり、ご家庭を訪問したりして心をつなぐことが大切です。これは私の足りないところなのですが、「いま電話してもだいじょうぶかな？」など変に気を回し過ぎてしまうところがあります。

「遠慮気兼はほこりのもとやで。」

(明治34・6・14)

と教えられますので、もっと積極的に働かせていただかなくてはと、これからの課題に向き合っているところです。

さて話は変わりますが、天理本通り商店街内の空き店舗をリノベーションして生まれた民間アートスペース「アトスペーススターン」というところがあります。教祖140年祭前後は「刻字と書ふたり書作展」という展覧会が行われていましたので、友人と見学してまいりました。

ファイト！闘う君の唄を
闘わない奴等が笑うだろう

これは歌手中島みゆきさんの唄の一節ですが、大きな紙にファイト！と書かれてあり、元気を頂いたよう

に思いました。

たとえば悩みごとがあつて誰にも相談できない方が、この字を見て、少しでも明るい気持ちになったら「よし頑張ろう」と前向きになれたら、これもおたすけと言えるのではないのでしょうか。ようぼくは寄り添う心さえあれば、何からでもおたすけにつながると思いました。

またハガキのサイズに書かれた「優しい心、神の望み」という字も私の心に刺さりました。優しい心にならせていただくには、親神様を等として、ほこりの心、人に厳しい心や冷たい心を払い、神様のお望みくださる温かい優しい心にならせていただきたいと思いました。

稿本天理教祖伝逸話篇一三五「皆丸い心で」を拜読させていただきました。

皆丸い心で

明治十六、七年頃の話。久保小三郎が、子供の樫治郎の眼病を救けて頂いて、お礼詣りに、妻子を連れておちばへ帰らせて頂いた時のことである。

教祖は、赤衣を召してお居間に端座して居られた。取次に導かれて御前へ出た小三郎夫婦は、畏

れ多さに、頭も上げられない程恐縮していた。

しかし、樫治郎は、当時七、八才の子供のこととて、気かねもなくあたりを見廻わしていると、教祖の側らに置いてあった葡萄が目についた。それで、その葡萄をジッと見詰めていると、教祖は、静かにその一房をお手になされて、

「よう帰って来なはったなあ。これを上げましょう。世界は、この葡萄のようになあ、皆、丸い心で、つながり合つて行くのやで。この道は、先永う楽しんで通る道や程に。」

と、仰せになって、それを樫治郎に下された。

皆がぶどうのように丸い心になる。ぶつかつても相手を傷つけることはありません。お互いに相手の立場や気持ちを汲んで会話をすれば、「ああ、こんな考えは自分にはなかった」とか、相手を知ることにもなります。また、ぶどうの軸は房の中心にあり、それぞれをつないでいます。このぶどうの軸が教会の会長や奥さんと考えますと、人が食べたくなるような美味しそうな実がなっているようす

が、陽気ぐらしの教会、互いにたすけあつて勇んでいる教会の姿となりましょう。

そして「先永う楽しんで通る道」とは、次の代へ御教えが伝わっていき、そこに集う人の陽気ぐらしが当たり前姿になってくれれば、素晴らしいことだと思えます。

このたび、御本部から各教会に「たすけ一条・つとめ一条」と御揮毫された色紙を御下附くださいました。

真柱様は、教祖140年祭で「3年間の努力のうえに立った歩みを続けていく」ようお言葉をくださいました。私たちは、この御揮毫の通り「たすけ一条・つとめ一条」の心で勇んで歩み、真柱様にご安心いただきたいと思えます。

深谷善和先生の著書「お道のことば」の中で、「たすけ一条」について分かりやすくお示しくださっていますので、引用させていただきます。

たすけ一条

(前略)親神様の思召とは何か。その思召に添う行動、生き方とは何か。それは「たすけ一条」であります。教祖が五十年にわたるひながたの中に終始一貫お示し下さったのは、この

「たすけ一条」のご行動でありました。

「たすけ一条」とは、人にたすかっ
てもらいたい、という心一つで日々
を歩むことでもあります。しかしそれ
は、神、一条の場合と同じように、決
して布教師とか教会の先生とか言わ
れるような、形の上から布教専務に
通っている人だけに当てはめられる
言葉ではありません。もちろん、我
が身我が家のことも忘れて、に、を、い
がけ、おたすけに身をささげる人の
姿は、まさに「たすけ一条」の火花の
散るような、灼熱の姿だと言うべき
でしょう。そして、そのような道を
歩む人が、まだまだ続々と出てこな
ければ、世界中の人々をたすけるこ
とはできないでしょう。教祖はどん
なにかそれをお待ち望み下さってい
るに違いありません。しかし、だか
らと言って、現に、いろんな職業に
ついて仕事をしている人は「たすけ
一条」とは縁なき衆生なのだという
ようなものではありません。それは
お道を信仰するみんなの生き方なの
です。

めいめいの身のまわりの中で、自
分としてできる精いっぱいの人だす
け。——たとえば家庭や職場で、思
いやりのこもったひと言の言葉で人

の心を明るくすることも、他の人の
仕事やしやすいうような、ちよつとし
た配慮や行動も、あるいはまた、身
近で悩んでいる人、困っている人の
相談にのってあげることも、自分が
このお道の信仰で、どんなに明るく
楽しい日々を送れるようになったか
を人に聞いてもらうことも、みんな
立派なおたすけにつながるのです。

まずは何からでも自分にできる
ことを実行すること。そして次には、
今までできなかったことが一つでも
二つでも実行できるように努力する
こと。せめて少しでも人にたすかっ
てもらおうのだ、という精いっぱい
の心で日々通ることが大切です。

自分の心を砕き、苦勞をした結果、
人がたすかかって下さったという姿を
見たときの喜び。それは、この世の
中で味わうことのできる最大の喜び
だといえるでしょう。そして、これ
こそ「たすけ一条」のよぶほくだけが
味わうことのできる喜びなのです。

また「おつとめ」について深谷先生
は著書で次の通り述べられています。

おつとめ
教祖が、五十年のひながたを通し

て私たちにお教え下さったのは、世
界中の人々を真底からたすけるた
めの、たすけ一条の道でありまし
た。そして、そのたすけ一条の道と
してお教え下さったのが「つとめ」で
あります。教祖は終始この「つとめ」
の実現をお急ぎ込み下され、ついに
は二十五年の命を縮めてまでも、私
たちにお望み下さったのは、この「つ
とめ」の実現ということでした。(後略)

このつとめとは「かんろだいづと
め」のことです。また、私たちの身近
なところでは、「朝夕のおつとめ」と
「月次祭のおつとめ」があります。個々
に参拝するときのおつとめもありま
すし、身上や事情の方のご守護を願っ
て心を定めてつとめる「お願いづと
め」もあります。教会に伏せ込ませて
いただく場合、青年づとめ、女子青
年づとめという言葉も使います。

おつとめは、心を澄ませ、一手一つ
の心で勇んで勤めさせていただくこ
とが大切です。日常生活においても大
切な心の持ち方のように思えます。

真柱様は教会の役割として、陽気
ぐらしのできる教会を目指して、教
会につながるようほく、信者がこれ
から先を見据えて、心を合わせてに

をいかけ、おたすけに励んでくれる
ことを望まれて、「たすけ一条つと
め一条」の色紙を下附くださったの
ではないかと拝察いたします。

これからの道の歩みにおいて、
「たすけ一条つとめ一条」のお言葉が
必ず一人ひとりの大きな支えとなっ
て、後押ししてくださると信じてい
ます。

新たな歩み出しにあたり、5年、
10年先を見据えて、共に一手一つ
の心で勇んで勤めさせていただきま
しょう。

ご清聴ありがとうございました。
(文責・本島通信編集室)

大教会辞令

(立教189年2月22日付)

総務部

部長	池田さわみ
委員	井上 哲
同	大西 知
同	岡崎八十則
同	原口 実
同	以上

二月月次祭 祭典役割

献饗長 平井真治郎
伝 供 大西知・向所隆文・永島宗行・大上道徳・後藤正治・奥村龍夫・伊東康成・高垣光治・雲庵春彦・横山正次・高島栄造・横関茂治・長尾海和・岩橋秀一・白垣初生・香川勝巳・鎌田典夫・宮路和徳・奥村武夫・村田輝夫・橋口徹・古井信・上山康雄・江草克二・肥後信・牧野近弘・**雅楽奉仕者** 文岡育則・片山秀明・上山薫・伊東賢太郎・香川靖幸・白垣俊生・片山昇太（順不同）

祭主 指図方	大教会長		寺本教生	
	井上 哲	厩者	西山道教	賛者
座りづとめ	西山道教	奥村龍夫	てをどり前半	片山直明
てをどり前半	伊東康成	伊東康成	てをどり後半	茶屋原良昭
てをどり後半	高垣光治	田中丸勝也		
てをどり	大教会長	篠原丕王		
	牧野道昭	永島宗行		
	老木邦光	大上道徳		
	会長夫人	片山孝代		
	前 会 長	岩橋元実		
	片山やすゑ	伊東晴美		
ちやんぼん	大西 知	雲庵春彦		
拍子木	岩橋慶三	高島栄造		
太鼓	片山 勲	後藤正治		
すりがね	岩橋竜造	横山富明		
小鼓	窪田靖明	長濱充憲		
三味線	向所隆文	横山正次		
胡弓	長尾澄子	岡崎むつゑ		
	池田さわみ	向所暉美子		
	片山香葉子	菅岡和美		
神殿講話	池田さわみ	加藤道代		

二月月次祭祭文

立教百八十九年二月二十二日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様の深く厚き親心と妙なる自由の御守護のまにまに日々を結構にお連れ通り下さいます御高恩の程は誠に有難く勿体ない限りでございます

私共は届かぬながらも御恩報じを念じてお与え頂いたそれぞれの立場でたすけ一条の御用に努め励ませて頂いております

教会の二月の月次祭を執り行わせて頂く日柄を迎えましたので只今より役目に与るおつとめ奉仕者一同心を一つに揃えて御教え通り座りづとめてをどりを陽気に勇んで勤めさせて頂きます

御前には折からの寒さも厭わず大勢の道の子供達が今日を楽しみに寄り集い尚も尽きせぬ御守護にお縋りする状をも御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

分けても去る一月二十六日教祖百四十年祭が厳かに執行され遠く海外も含め十二万人余の帰参者と共に当日帰参が叶わなかったよぶく信者がそれぞれの土地所から年祭の元一日に込められた深い親心と三年千日に亘ってお導きお育て下さいました数々の御守護に心から御礼申し上げます

更にこの日の祭典にお出まし下さいました真柱様のお言葉に「年祭に向つての、いわば非常時の歩みは終わりました。これからは普段の歩みになっていくわけですが、普段と言っても三年前に戻ってしまつたのでは何にもありません。三年間の努力の上に立った歩みを続けていかなければならないと思います。今

日は新たな歩み出しの日であります。どうか皆さん方には、これからも勇んで歩み続けて下さることをお願いいたしました。今日のあいさつとさせて頂きます。ありがとうございます

私達はこの三年間の努力と成果を糧として真柱様を志に一手一つにおたすけの実践とおつとめに真心を込めて陽気ぐらしの道を歩ませて頂く決意でございます

尚おらばでは三月四日より八日まで「学生生徒修養会大学の部」が更に三月十日から十二日まで「学生生徒修養会高校卒業生コース」が開催され続いて三月二十八日には「教祖百四十年祭学生おらばがえり大会」が開催されます

加えて大教会に於きましては三月二十八日から四月一日まで少年会本島団鼓笛隊春季合宿が行われますが新たなこの旬に次代を担う若年層の育成に心をつなぎ真剣な丹精に努めさせて頂きたいと存じます

何卒よろづたすけの上には願う心の誠の理に一段と自由の御守護を賜わり一手一つに睦み合う陽気ぐらしへの歩みを着実に進めさせて頂けますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます

(原文のまま)

2月22日(日)
【香川県丸亀市】

天候 晴時々曇
 最低気温 3.2℃
 最高気温 22.2℃
 平均気圧 1013.7 hPa
 平均湿度 68%
 平均風速 2.7 m/s
 日照時間 9.0 時間
 降水量 0.0 mm

宮森先生おてなoshi

大教会世話人・宮森与一郎先生による「おてなoshi」が2月25日午後3時より約1時間、詰所4階講堂で行われ、47名が受講しました。

席上、先生から五下り目は、おたすけについて教えられているとし、嘉永6年に教祖の夫善兵衛様お出直し、中山家の母屋取壊ち、こかん様の浪速布教が行われた翌年の嘉永7年に、教祖は「びやゆるし」をお始めくださった。それでもすぐに人が寄ったわけではなく、さらに10年後の元治元年飯降伊蔵先生が受信される



頃まで、貧のどん底は続いた。

その中を「ようきづくめ」で通られたひながたの道を心に置いて勤めさせて頂きましよう、とお話くださいました。続いて六下り目までおてなoshiを行いました。

青年会春季雅楽講習会

青年会本島分会(伊東賢太郎委員長)では、2月7・8日に京城大教会において京城分会と合同による「春季雅楽講習会」を実施。本島分会から9名、京城分会から6名の計15名が参加しました。最終日は神殿において御供演奏をさせていただきました。



日は神殿において御供演奏をさせていただきました。

レッツゴー青年会・北海道

地方の教会でひのきしんを行う「レッツゴー青年会」が2月16日から19日にかけて北海道にて実施。青年会委員3名が、本室分教会(室蘭市)、樺太分教会(美幌市)、本樺分教会(札幌市)の順に境内地と境



内建物の雪かきを行いました。今年は特に札幌の積雪

が多く、本樺分教会では18日に雪かきしたものの、19日早朝にはそれ以上の積雪があり、出発直前まで雪かきをしました。

片山香葉子さん歓送サプライズ

片山香葉子さん(大教会長夫妻の長女)が、3月16日に松村天晴氏(高安大教会後継者)との結婚式が執り行われる前、本島大教会での最後の月次祭となる2月22日の教会長会議において、歓送サプライズを行いました。岩橋元実さんが「香葉子ちゃん、ご結婚おめでとー!」の声出し、出席者全員で「みちのこウエディングソング」を歌い、間奏では高垣恒子さんがメッセージを送り、最後に片山孝子さんが代表



してお祝いの花時計を贈呈しました。

すき間のおはなし

一〇〇〇号カウントダウン

本島通信が第99号にいたり、大台の一〇〇〇号まで両指に数えられるようになりました。このまま毎月発行していくと、記念号は来年一月号ということになります。

本島通信を語るうえで特筆すべきことがいくつかあるので挙げてみたいと思います。

まず、創刊は昭和3年(1928)10月31日。これに先立ち同年8月28日に「本島図書館開館式」が行われています。いまだに信じられないことかもしれませんが、当時の本島分教会はアカデミックな場所でした。本島図書館では本島通信を編集刊行するほか、周辺の離島小学校に巡回文庫として図書を貸し出した。海外から子供達の絵画を数千点集めて「万国児童作品展覧会」を複数回開催したり、活発な活動が行われていたのです。

親里で現在の「天理図書館」本館が開館し、「天理時報」が創刊したのは昭和5年10月です。本島図書館と本島通信はこれより2年も早く実施されているところに、我々は誇りを持っていいのではないかと思います。

その後、戦争のため昭和15年6月の第81号をもって休刊となり、第82号を再刊できたのは6年後の昭和21年6月でした。再刊号は手書きで、これが昭和24年8月の第101号まで続きます。本島通信を編集する者として、この物資困難な時代に手間のかかる手書き通信を刊行してくれた先人の熱意に心からの敬意を覚えます。

現在、本島通信編集部では、「大教会年譜表」を毎年更新し、本島ドットコムにおいて公開しています。本島大教会は何をしてきたのか、どのような先人がいたのか、年譜表を検索するとすぐにたどることができ、歴史を振り返ることができます。

一方で、いまの本島通信は、そのまま100年後の本島につながる人々の歴史になると言えるでしょう。彼らの誇りと抛りどころになる。そんな夢をみながら、毎月の編集作業を積み重ねていきます。(むかいじよ)

大教会3月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

●申込方法：

メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。

●申込締切：3月21日午後5時まで

●ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。



をびや許し
 赤峰1、ホノルル2【計3名】
 (立教189年1月分)
 吉峰 高田亜希
 タミナル 清水恵晶
 【計2名】

証拠守り下附

赤峰 中野亜紀
 新信峰 緒方稜士
 【計2名】

おさづけの理拝戴

立教189年2月、本島関係のお運びはありませんでした。

事情はいつ

大教会長動向

▼3月(予定)▲
 2月27日～3月2日、
 教人資格講習会講師



- 3日、香川教区役職委員会議
- 16日、片山香葉子結婚式
- 22日、大教会月次祭執行
- 23日、大教会春季霊祭執行
- 24日、修養科門出まなび
- 25日、かなめ委員会
- 26日、本部月次祭参拝
- 27日、かなめ会
- 28日、学生会春のおちばがえり大会
- 30日、本部神殿奉仕当番
- 31日、鼓笛隊春季合宿閉会式

本草ダイヤモンド婚
 本草分教会(倉嶋孝明会長、東京都練馬区)では、倉嶋新一前会長と勝子夫人が昭和39年11月2日に結婚して61年目を迎えるにあたり、1月3日、「ダイヤモンド婚」と、前会長の「米寿」の祝いを行いました。子ども、孫、曾孫が全員揃って賑やかに過ごしました。

布教部報告(2月分) 数字は本年の提出回数です

統計(1月1日～31日)

にをいがけ名簿提出教会(2月)					
本島	2	本千治	2	本九台	2
樺太	2	本千恵	2	赤峰	2
本室	2	本浜陽	2	雅峰	2
渋谷	2	本攝	2	神峰	2
代々木	2	攝津	2	豪峰	2
本萬代	2	攝泉	2	倉峰	2
本都	2	本太	2	大雄峰	1
本京	2	本福	1	雄福峰	2
本道盛	1	安藝本中	1	栄森峰	2
本草	2	本備前	2	栄星峰	2
本護	2	本迪	2	壺峰	2
本三	2	本府中	2	實峰	1
本恵	2	沖浦	2	大隅聖峰	2
本恵山	2	本亀	2	大松峰	1
本恵明	2	本清水	2	大駿峰	2
本静森	2	崇徳	2	別峰	2
本日米	2	与島	1	大英峰	2
本米	2	本九	2	文峰	2
本米里	2	本陽山	2	都峰	1
本米浜	2	本肥港	2	仙峰	2
本千代	2	本新田	2	ハリウッド	1
計63教会			614名		

おさづけ取次報告教会(2月)					
本島	2	本千代	2	本新田	2
樺太	2	本千治	2	本九台	2
本田中	2	本千恵	2	赤峰	2
本倉岡	2	本浜陽	1	雅峰	2
本樺	2	本攝	2	神峰	2
本室	2	攝津	2	豪峰	2
渋谷	2	攝泉	2	倉峰	2
代々木	2	本邦	1	栄峰	2
本萬代	2	本太	2	大雄峰	2
本都	2	本福	2	雄福峰	2
本京	2	安藝本中	1	栄森峰	2
本道盛	2	本備前	2	栄星峰	2
本草	2	本迪	1	壺峰	2
本三	2	本府中	2	大隅聖峰	2
本恵	2	沖浦	2	大松峰	2
本恵山	2	本亀	2	大駿峰	2
本恵明	2	本清水	2	別英峰	2
本静	2	与島	1	大英峰	2
本日	2	本九	2	S.P.	1
本米	2	本陽山	2	ハリウッド	1
本米里	2	本肥	2		
本米浜	2	本新田	2		
計70教会			1,636回		

教会名	初席	中席	聖(喜)壇	修養料	教人講習	検定講習
樺太		1				
本室		1				
本米		1				
本備	1	2				
赤峰			1			
神倉		1				
大隅		1				
新信			1			
鶴峰	1	2				
合計	3	9	2	0	-	-

ろくぢふ (立教189年2月分)
 ▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太 ▼本樺△天上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜△片山清枝・正枝・誠 ▼崇徳分教会 ▼本高分教会 ▼安藝本中△池田こみち ▼本九分教会 ▼ポートランド△片山和信・陽子・昇慶・竜次
 ご芳志に厚くお礼申し上げます



天理教婦人会 第108回総会

【天理教婦人会】

総ての会員がおぢばへ
人を誘っておぢばへ
一別席者とともに

〈式典〉

- 日時：立教189年4月19日(日) 午前9時30分
- 会場：本部中庭、南・東礼拝場前、西境内地

支部の集い

- 日時：式典終了後(約1時間)
- 会場：本島詰所4階講堂

記念行事【講演会】

- 日時：4月18日(土)午後5時
- テーマ：「おやさま」
- 第二食堂：深谷靖子(河原町支部長)
- 東講堂：諸井恵美子(名京前支部長)
- 東右第一棟：宮森みよゑ(明拜支部長)
- 東左第五棟：深谷宏美 (アメリカ婦人会主任)

鼓笛隊春季合宿

【本島団鼓笛隊】

- 第115回本島団鼓笛隊春季合宿
- 集合：3月28日(土)夕刻まで集合
 - 解散：4月1日(水)朝解散
 - 参加対象：令和8年度の小学1年生より高校3年生(幼稚園児不可)
 - ※初めての隊員も参加できます
 - 会場：本島大教会
 - 参加御供：一律5000円(フェリー代含む)+送迎費2000円(片道・往復どちらでも)
 - 申込み：3月10日まで各分隊担当までご連絡ください。
 - ご相談、ご質問は 佐藤道子(090-7570-4807)まで

MOMOの会

【婦人会本島支部】

MOMOの会とは、本島に
つながる子育て中の母親
とその同年代の方が対象
です

◆鼓笛隊応援ひのきしん&勉強会

- 期間：3月29日(日)から31日(火)
- 場所：本島大教会
- ※詳細は公式LINEよりご確認ください

<https://www.honjima.com/>

学生おぢばがえり大会

【本島学生担当委員会】

- 教祖140年祭学生おぢばがえり大会
- 日程：
 - 3月28日(土)午前10時(本部中庭) 式典「真柱様お言葉(メッセージ)」
 - 式典後、直属アワー
 - 3月27日(金)夕づとめ終了後 前夜祭「春Fes」 (東西泉水プール前広場)
 - 連絡先：
 - 雲庵春彦(090-2515-8039)
 - 横関茂治(090-1138-1690)
 - ※教区参加の方も直属アワー準備のため、事前にご確認ください。

3月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

- 〈大教会・食堂ひのきしん〉
- 期間：3月21日～23日
 - 派遣：崇徳
- 〈詰所・食堂ひのきしん〉
- 期間：3月25日～26日
 - 派遣：渋谷①、本勇①
- 〈鼓笛隊春季合宿：本島大教会〉
- 期間：3月28日～4月1日
 - 派遣：本浜、本邦、琴浦、本九、本新田、赤峰

春季霊祭のご案内

【本島大教会】

3月23日、大教会で執り行われる春季霊祭に、左記の霊様が年祭に当たっておられますので、ご連絡申し上げます。

■一年祭

- 藤井良二主 (本島)
- 吉野俊宏主 (吉松峰)
- 西山貞子刀自 (本室)
- 位下洋江ロクサン刀自 (本平濱)
- 寺本淑美刀自 (本篠)

■二十年祭

- 中西直隆主 (本島)
- 平井かね刀自 (本島)
- 吉田義雄主 (本千代)
- 神出繁子刀自(シートタック)

■三十年祭

- 妹尾 敏主 (本高)
- 岡崎フランク昇主

■五年祭

- ヒサミ・スナリヨ・中西刀自
- 牧野光子刀自 (本島)
- 寺本管一郎主 (本京)

■四十年祭

- 木藤鈴江刀自 (イロノイ)
- 杉井茂雄主 (本阿波)
- 松葉頼太主 (本島)

■十年祭

- 中西史郎主 (本島)
- 中西美智代刀自 (本島)
- 肥後 肇主 (文峰)

■五十年祭

- 杉井辰雄主 (本阿波)
- 永田梅吉主 (本平濱)
- 梶田ウラ刀自 (本承徳)
- 大上武次主 (本樺)
- 片山正巳主 (本島)

※なお、教会名は連絡先であり、実際の所属とは異なる場合があります。

【計25霊】